

困民軍の進撃と信州への転戦経路



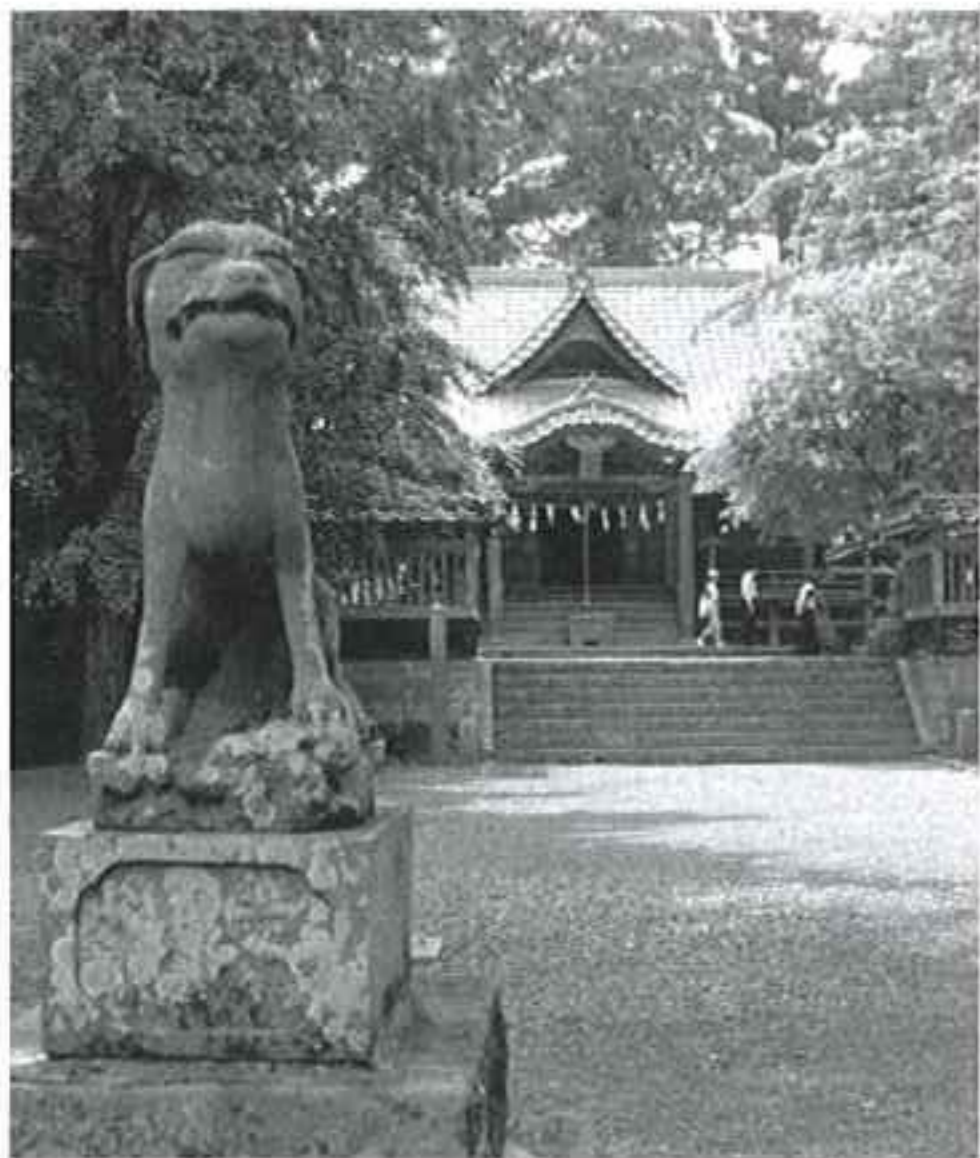
企画・監修 秩父市教育委員会
 〒368-8686
 埼玉県秩父市熊木町8-15
 TEL 0494-22-2481 FAX 0494-23-9294
 制作 デザインスタジオ MICKEY
 © 2009 MICKEY Corporation. All Rights Reserved.



写真：困民党数千名が集結した吉田の嶺神社

秩父事件
 天朝様へ
 敵討つる
 加勢しむ
 心火なげ

明治17年秋、自由民権を唱え、上記の呼びかけで農民が蜂起



4 棕神社



3 窪田巡查殉職記念碑



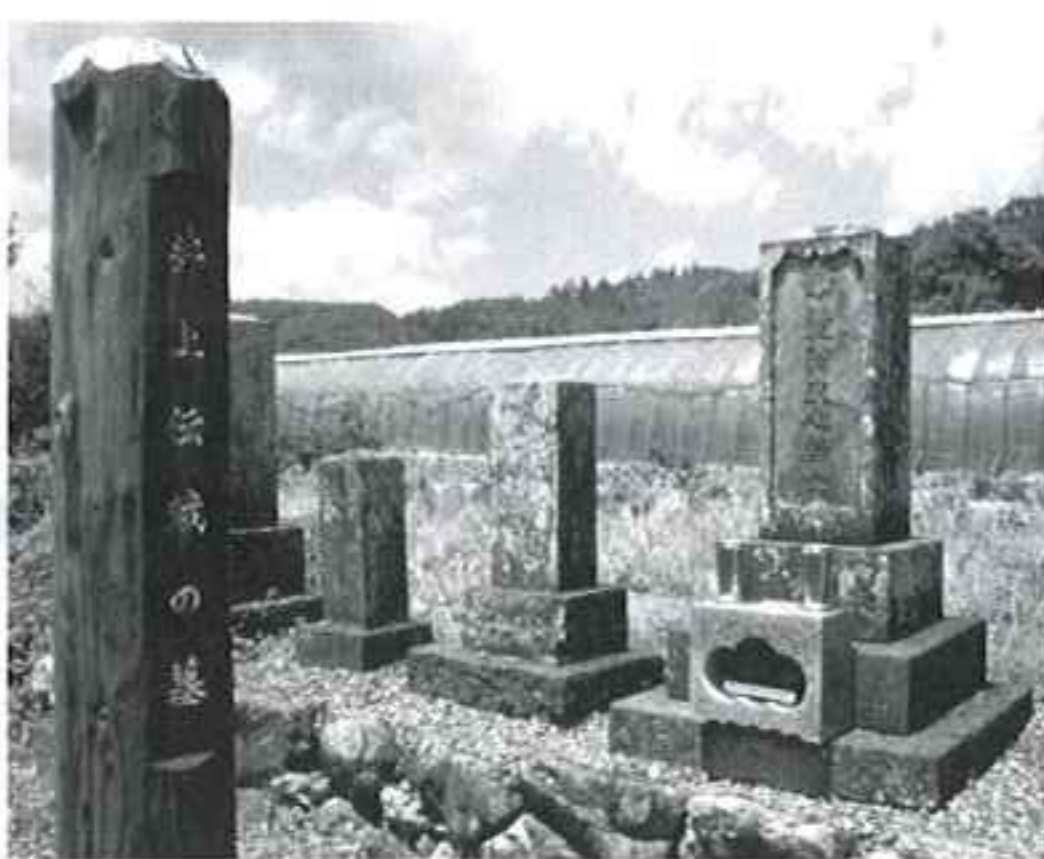
2 清泉寺



5 井上传蔵邸(丸井商店)跡



7 飯塚森蔵の墓



6 井上传蔵の墓

棕神社に農民が集結

明治17年11月1日、数千名にも及ぶ農民が棕神社に集結し、困民軍を組織。役割を命じ、五ヶ条の軍律を徹底して小鹿野町・大宮郷（現秩父市）へ向け武装蜂起した。

井上传蔵と飯塚森蔵は事件直後から行方を絶つ。欠席裁判で井上传蔵は死刑、飯塚森蔵は懲役11年を言いわたされるが、その後井上传蔵は北海道へ、飯塚森蔵は九州・四国へ逃れる。

秩父事件・半日行程 モデルコース 総距離 6.5km

秩父事件資料館・井上传蔵邸(復元)
(入館料:大人200円 小中学生100円・火曜日休館)



清泉寺の血闘

新井駒吉宅に集結していた一隊が、新志坂周辺にて巡查と戦闘。農民2名が戦死。

山間の農民にとって教育費も、苦境に追い詰められた要因のひとつだった。



新志坂(清泉寺)

高台に清泉寺を望む。この桑畑をハチマキにタスキ姿の困民軍と、制服姿の巡查たちが、疾風の如く駆け抜けていったことだろう。



1 復元された井上传蔵の丸井商店

秩父事件・一日行程 モデルコース



14 半納の横道

蜂起の日、半納耕地からは神官を除いて全戸が参加した。警官隊とのゲリラ戦を挑み激戦地「半納の戦い」として有名。火の見と常夜灯が今も残り、事件の痕跡をうかがわせている。

半納の横道
至太田部峠



12 石間交流学習館 (秩父事件資料館)

火曜日休館 入館料
大人300円
小中学生150円

13 高岸駅蔵宅跡

石間副戸長高岸駅蔵の家は現在無く、墓石のみ残っている。



11 加藤織平の生家と土蔵



18 新井駒吉の生家

至城峯山

18 新井駒吉の生家

栗野山は皆野町日野沢と吉田のちょうど中間に位置することから、指導者的な農民が双方より集まり、たびたび山林集会が開かれていた。

19 栗野山集会跡 (秩父事件蜂起日決定の地)

阿熊戸長 守岩太吉の墓

岩蔭遺跡 守岩(彦久保) 次郎吉の墓

起点
秩父事件資料館 井上传蔵邸(復元)
(入館料:大人200円 小中学生100円)
(火曜日休館)



10 落合寅市の家

家は浄水場の横に、墓は浄水場の裏にある。

11 加藤織平の生家と墓

石間溪谷
落合寅市の家と墓

19 栗野山集会跡 (秩父事件蜂起日決定の地)

阿熊戸長 守岩太吉の墓

岩蔭遺跡 守岩(彦久保) 次郎吉の墓

起点
秩父事件資料館 井上传蔵邸(復元)
(入館料:大人200円 小中学生100円)
(火曜日休館)

高齢者生産活動センター 龍泉寺

万福寺

坂本宗作の墓

16 高岸善吉の墓

山逢の里 キャンプ場

みどりの村

巢掛トンネルを経て小鹿野町へ

万年橋

田中千弥の碑

井上传蔵邸(丸井商店)跡

万松寺

飯塚森蔵の墓

井上传蔵の墓

棕神社

☆吉田総合支所

釜の上農園村

8 旧下吉田村戸長役場跡

井上传蔵が隠れた土蔵跡 17

窪田巡査殉職記念碑

子の神の滝

2 清泉寺

道ノ駅 龍勢会館

3

阿熊溪谷

阿熊戸長 守岩太吉の墓

岩蔭遺跡 守岩(彦久保) 次郎吉の墓

起点
秩父事件資料館 井上传蔵邸(復元)
(入館料:大人200円 小中学生100円)
(火曜日休館)

至土坂峠

米山薬師

吉田 元気村

合角ダム

20 至屋久峠



20 屋久峠にたたずむ石仏



20 屋久峠より山中谷を望む

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|------|-------|------|------|-------|------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|------|--------|------|------|------|-------|------|------|------|------|------|------|
| 同 | 同 | 同 | 同 | 伝令使 | 同 | 小荷駄方 | 同 | 銃砲隊長 | 同 | 弾薬方 | 同 | 軍用金集方 | 同 | 兵糧方 | 上吉田村小窪 | 同副隊長 | 乙大隊長 | 同副隊長 | 甲大隊長 | 参謀長 | 同副隊長 | 同副隊長 | 會計長 | 副総理 | 総理 |
| 石間村 | 上吉田村 | 本野上村 | 上吉田村 | 上吉田村 | 群馬県 | 三波川村 | 石間村 | 阿熊村 | 三品村 | 阿熊村 | 静岡県 | 北相木村 | 石間村 | 下吉田村 | 上吉田村 | 下吉田村 | 下吉田村 | 風布村 | 西ノ入村 | 北相木村 | 大宮郷 | 上吉田村 | 下吉田村 | 石間村 | 大宮郷 |
| 高岸 蔵 | 駒井 作 | 嶋田清三郎 | 坂本宗作 | 門平惣平 | 小柏常次郎 | 横田周作 | 新井悌次郎 | 新井駒吉 | 門松右衛門 | 守善彦次郎 | 宮川寅五郎 | 井出為吉 | 新井繁太郎 | 井上善作 | 高岸善吉 | 落合寅市 | 飯塚森蔵 | 大野苗吉 | 新井周二郎 | 菊池貫平 | 柴岡熊吉 | 宮川津盛 | 井上伝蔵 | 加藤織平 | 田代栄助 |

役割表 (一部)

明治新政府は近代化を急ぐあまり、学制・徴兵令・地租改正などの改革を次々に進め、農民たちの生活を圧迫した。そのうえ、松方デフレ政策で物価は一気に下落し、秩父の農民の最大の現金収入である繭や生糸の価格が大暴落した。

農民たちは土地を担保に高利貸から借金をするが、長引く不況のなかで返済できず、土地を失い、破産する農家が続出した。

自由党と困民党

明治16年末、下吉田村の落合寅市¹⁰上吉田村の坂本宗作¹⁵高岸善吉¹⁶は、秩父郡役所へ高利貸説諭請願を行うが、却下された。だが、以後も請願は続けられた。

明治17年2月、自由党幹部の大井憲太郎が来秩して演説会を開催した。これを契機に自由党入党者が相次いだ。その中に前述の3人や井上伝蔵¹⁵⁶らの名前があった。伝蔵の家は「丸井」と称し、江戸期には江戸城の御用商人だった。彼は芝居を好み俳句を詠む文化人で、商用で上京し自由民権運動にふれて共感していた。

石間村の加藤織平¹¹も近隣の農民生活をつぶさにみて憂える1人であった。善吉らは織平に協力を頼み同意を得る。群馬の自由党員小柏常次郎も加わる。8月ごろより頻繁に山林集会を開き困民党の組織化が図られ、高利貸との交渉を行った。9月、大宮郷の田代栄助を阿熊村の新井駒吉宅¹⁸に招き、翌日、善吉宅で要求四項目を決定した。

- 一 高利貸のため身代を傾け、生計に苦しむ者多し、よって債主に迫り十か年据置四十か年賦に延期を乞うこと
- 一 学校費を省くため三か年休校を県庁に迫ること
- 一 雑収税の減少を内務省に迫ること
- 一 村費の減少を村吏に迫ること

9月末、大宮郷警察署へ高利貸説諭請願を行うが却下された。10月初旬、高利貸に対する個別集団交渉を展開したが、要求は拒否された。12日、井上伝蔵宅¹⁵で開かれた幹部会議で武装蜂起を決定して、26日、粟野山集会¹⁹を開いて蜂起期日と集合場所を決めた。群馬の自由党員、長野県北相木村自由党へそれぞれ複数の使者が走った。蜂起に向け困民党の人々が活動していた10月29日、自由党は大阪で解党した。

武装蜂起

風布村の大野福次郎・苗吉らは村民に「恐れながら天朝様に敵対するから加勢しろ」と参加を呼びかけた。風布組は31日、金毘羅神社に集合して下吉田村に向けて出発した。

11月1日朝、阿熊村の新井駒吉宅¹⁸に近隣の農民たちが集結していた。そこに警官隊が現れた。一隊は下吉田村に向かって警官隊を追撃し、窪田鷹男巡查³を捕縛し、警官隊を清泉寺²付近に追いつめ戦闘となった。この戦いで困民党の農民2人が戦死し、警官4人が負傷した。捕縛された窪田巡查³は斬

殺された。午後には、警官隊が逃げ込んだ下吉田村戸長役場⁸包囲の戦いが展開された。この夜、掠神社⁴に集結した武装農民数千名を前にして田代栄助が役割表を、参謀長菊池貫平が軍律五ヶ条を発表した。

- 第一条 私に金円を掠奪する者は斬
- 第二条 女色を犯す者は斬
- 第三条 酒宴をなしたる者は斬
- 第四条 私の遺恨をもって放火その他乱暴をなしたる者は斬
- 第五条 指揮官の命令に違反し私に事をなしたる者は斬

甲乙二大隊は夜、小鹿野町に向かって進軍し警察分署と高利貸を襲った。2日早朝、小鹿野町を発ち小鹿坂峠²¹を越えて札所²³番音楽寺に集結した。

昼前、音楽寺²²の鐘を乱打し、鯨波の声をあげて怒濤のごとく武の鼻の渡し²³をわたり、大宮郷に乱入して警察署、郡役所、裁判所を占拠した。すでに役人や警察官は逃亡していた。困民軍は郡役所を「革命本部」とした。



23 武の鼻の渡し

この日、高利貸との交渉²⁴、豪家に対する軍用金の借用、近村への駆り出しが行われた。2日夜から3日にかけて大宮郷に集まった人々は7、8千とも1万人ともいわれている。埼玉県警は警察の力では鎮圧できないと判断し、2日午前、県庁より内務卿山県有朋宛に憲兵隊派遣を要請。3日、憲兵隊は秩父から平野部への出口をふさいだ。



22 音楽寺の鐘



24 商家の柱の傷跡

3日早朝、官兵襲来の報告が入ると、困民軍を三隊に分け、甲隊は武の鼻の渡し、乙隊は大野原村、丙隊は大宮郷という隊形をとった。しかし、誤報にまどわされて甲隊は下吉田村から大淵村へ、乙隊は皆野村へ進軍し、丙隊も皆野村に移動。午後、親鼻で荒川を挟んで憲兵・警官隊との銃撃戦が行われた。

4日午後、皆野本陣は解体するが、一隊5、6百名は本野上村(長瀬町)から出牛峠を越えて児玉に向かい、金屋村(本庄市児玉町)で待ちかまえていた東京鎮台兵と戦い敗れた。同日午後、石間村半納横道¹⁴では群馬の警官隊との戦いがあり、隊長の警部1人が戦死した。

4日夜、皆野村から下吉田村に戻ってきた2百人ほどは、菊池貫平を総理として新たに隊を編成して信州進出を決定。屋久峠²⁰から山中谷を抜け、十石峠を越えて佐久に進軍したが、9日、東馬流(長野県小海町)で高崎鎮台兵との戦いに敗れて壊走した。ここに10日間にわたる秩父困民党の戦いは終わった。

秩父困民党がめざしたもの

戦いの中で農民たちは、「今般自由党の者共、総理板垣公の命令を受け天下の政治を直し、人民を自由ならしめんと欲し、諸民のために兵を起す」、「先ず郡中にて軍用金を整え、諸方の勢いと合して、埼玉県を打ち破り、(中略)東京へ上り、官省の吏員を追討し、圧制を変じて良政に改め、自由の世界として人民を安楽ならしむべし」と叫んだ。ここに、秩父困民党が何をめざしたかが、明確に示されている。